# 奈良・飛鳥（あすかきょう）京跡

1　所在地　奈良県高市郡明日香村岡
2　調査期間　第一一一次調査　一九八六年（昭61）七月～九月
3　発掘機関　奈良県立橿原考古学研究所
4　調査担当者　小澤　毅
5　遺跡の種類　宮殿跡
6　遺跡の年代　七世紀
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

飛鳥京跡は明日香村岡に所在し、一九六〇年度からの継続的な発掘調査により、七世紀の複数の宮殿遺構が存在することが判明している。調査地一帯は、舒明天皇の飛鳥岡本宮から天武・持統天皇の飛鳥浄御原宮まで、七世紀の主な宮殿が営まれた場所である。

（吉野山）

飛鳥京跡で検出される遺構は大きく三時期に分けられ、Ⅲ期遺構は斉明・天智天皇の後飛鳥岡本宮と天武・持統天皇の飛鳥浄御原宮に、Ⅱ期遺構は皇極天皇の飛鳥板蓋宮に比定されている。構造が最もよくわかっているⅢ期遺構は、東西約一六〇m南北約二〇〇mの方形区画の中に大小の建物が配置された「内郭」を中心とし、その南東には大型建物とそれを囲んだ施設「エビノコ郭」が配され、さらにこれらを「外郭」が囲んでいる。また「内郭」の北西には、中嶋のある石組の池を中心とする「苑池遺構」が設けられている。

第一一一次調査は、Ⅲ期遺構の「内郭」東北隅から北東へ五五mほど離れた、「外郭」に含まれる地点の発掘調査で、調査面積は二四$m^2$である。調査の結果、Ⅲ期遺構では、砂利敷SH八六〇一・植物質堆積SX八六〇二・植物質堆積SX八六〇四を検出した。SH八六〇一は調査区全面で検出した舗装であり、その下部で検出したSX八六〇二・八六〇四はⅢ期宮殿造営時の廃棄物と想定される。Ⅱ期遺構では、石列SX八六〇五・木片の集中堆積SX八六〇六を検出した。SX八六〇五は調査区北寄りで検出した、径二〇～三〇cmの自然石を二～三列に並べた東西方向の石列で、層位的にⅢ期遺構に先行する。性格は不明であるが、石列の形状が同時期の石組溝とは異なるため、溝の可能性は少ない。SX八六〇六はSX八六〇五の下位にあり、長径約二mの不整円形を呈する。Ⅱ期宮殿造営に伴う廃棄物の堆積と考えられる。

木簡は、Ⅱ期遺構に属する石列SX八六〇五の隙間の石の下面近

くから一点が出土した。また、SX八六〇二からも削屑の細片二点が見つかっているが、釈読不能である。

8　木簡の釈文・内容

(1)　091

□□
秦人マ□

四周のいずれも原形をとどめない、長さ六五㎜幅一一㎜ほどの削片である。墨書は二行にわたっている。上部には一文字分の余白がある。右行は、文字の左端がわずかに残っているのみで、判読できない。

9　関係文献

奈良県立橿原考古学研究所『奈良県遺跡調査概報　一九八七年度（第一分冊）』（一九九〇年）

（鶴見泰寿）

## 奈良・下田東（しもだひがし）遺跡

1　所在地　奈良県香芝市下田東三丁目
2　調査期間　五位堂区画第五次調査　二〇〇五年（平17）六月～九月
3　発掘機関　香芝市教育委員会
4　調査担当者　山下隆次・福田由里子
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　縄文時代～近世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は馬見丘陵の南西端、西流する葛下川に北流して合流する支流が形成した沖積低地に位置する。五位堂駅前北第二土地区画整理事業に伴って二〇〇一年から継続して調査を行ない、二〇〇六年三月末までに三五七〇〇㎡の調査を終了した。その結果、全長二一ｍの帆立貝式古墳や飛鳥時代から平安時

（大阪東南部）